

こども安全対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
養育者への啓発	養育者が事故発生の危険性を知る	事故予防の対策を実施している	乳幼児期（特に0～4歳）の事故が減少する
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 啓発リーフレット等の配布数 ・クリアファイル：366部 ・リーフレット：709部 ② 地域育児教室(赤ちゃん会)の参加者数 296人	実際に「対策を行っている」人の割合 <4か月児> 67.0% <1歳6か月児> 75.0%	乳幼児の事故による救急搬送件数データ 87件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	乳幼児健診受診対象者の養育者アンケート	救急搬送データ
	【自己評価】 ・啓発物については、関係団体や分科会委員を通じて配布し、事故予防への意識向上につながっている。 ・乳幼児健診においてアンケートを実施したことにより、養育者の行動や意識を把握することができた。また、健診時に前年度のアンケート結果を配付することで、より意識づけができた。 ・救急搬送件数は増減を繰り返しているが、症状の程度を分析すると、中等症のけがの割合は減少傾向にあり、けがの程度は軽症が多くなっている。		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
子どもへの注意喚起（KYTの実施）	周囲の大人が日常生活に潜む危険性を認識する	KYT（危険予知トレーニング）を実施する	小学生の事故が減少する
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	KYT指導者育成講習会の参加者数 未実施	① トレーニング実施回数 25回 ② トレーニング参加児童数 908人	① 小学校内で起きる事故のうち、「休憩時間」に発生した事故の割合 2020年12月集計 ② 放課後を過ごす施設で発生した事故件数 38件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	小中災害共済給付データ、放課後児童健全育成事業所事故報告書件数
	【自己評価】 ・放課後を過ごす施設でKYTを実施したことにより、より多くの子どもたちがKYTを体験する機会を得ることができた。その効果により、放課後を過ごす施設での事故件数が減少傾向にある。		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
地域の住民による見守り	地域の住民が見守り活動を実施している	子どもと地域の大人との関係づくりができています	子どもが地域で安全安心に暮らしている
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 見守り活動の参加者数 1,700人	地域で「あいさつをする」子どもの割合	「安全安心な地域である」と感じている子どもの割合
	③ 「こども110番の家」の登録軒数 2,368軒	<小学生> 96.8% <中学生> 95.9%	<小学生> 90.1% <中学生> 78.8%
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	学校アンケート	学校アンケート
【自己評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動や「こども110番の家」登録呼びかけ活動は、順調に実施され、多くの区民に周知することができている。 ・安全安心な地域づくりに関する学校（児童生徒向け）アンケートを実施したことにより、子どもたちが地域に抱えている安心感や、地域の見守り活動の成果を検証することができた。 ・「安全安心な地域である」と感じている子どもの割合は、小学生・中学生ともに、前年度に比べて増加し、さらに高水準を保っている。 			

スポーツ安全対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
予防講習会の開催	スポーツ外傷予防の大切さを理解する	自主的に啓発活動を行う	スポーツ時の事故・けがの減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 講習会実施回数 5回 ② 講習会参加者数 300人	① スポーツイベント時の注意喚起回数 4回 ② スポーツイベント参加者数 約 11,000 人	運動競技事故の救急搬送件数 27件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	救急搬送データ
【自己評価】 従前からの分科会講習会、各構成団体が自主的に取り組むけが予防講習会等を引き続き実施することに加え、2019年度は、専門家を交えたより効果的な取組として、慶應義塾大学スポーツ医学研究センターに対し、分科会が2017年度に実施したアンケートの分析及び分析結果等に基づいた運動中のけがや事故防止のための提案業務を委託した。加えて、その提案内容を広く区民へ周知するため、講演会を実施した。今後はその提案をもとに、栄区内の運動中のけがや事故の防止により一層取り組んでいく。			

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
ウォーキングの推進	ウォーキングに対する啓発	ウォーキングの実践	スポーツ時の事故・けがの減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	チラシ配布数 4,300枚	① 新規歩数計配布数及び新規アプリ参加者数 492名 (2020年3月末時点) ② アンケートで「週1回以上ウォーキングを実践している」人の割合 38.1% (2018年実施アンケート 前年回答と同割合)	① 運動競技事故の救急搬送件数(20代以上) 17件 ② 「ウォーキングをすることで健康になった」と答えた人の割合 74%
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数、セーフコミュニティアンケート	救急搬送データ、ウォーキングイベント参加者へのアンケート
	【自己評価】 ウォーキングの啓発に関するチラシの配布や、2014年度からのウォーキングポイント事業による歩数計及びアプリの配布を通して、ウォーキングの効果について区民に広く周知した。講習会やウォーキングイベントへの参加者を対象としたアンケート結果では、ウォーキングの効果を実感しており、引き続き高い割合を保っている。今後も、ウォーキングの推進を行うとともに、分科会が主催するけが予防講習会等で、より多くの方に、ウォーキングとけが予防の関係性を周知していく。		

交通安全対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
自転車ヘルメット着用啓発	自転車ヘルメットの重要性を理解する	ヘルメットを着用するこどもの増加	自転車事故によるこどもの死傷者数の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	自転車ヘルメット着用啓発チラシ配布数 8,000部	自転車ヘルメットを着用することの割合 <未就学児> 71.4%	① 自転車事故によるこどもの死傷者数 7人 ② 自転車事故によるこどもの救急搬送のうち、頭部損傷の割合 63.6% ③ こどもの交通事故件数 15件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	区内市立保育園（4園）へのアンケート	警察統計、救急搬送データ
	【自己評価】 例年行っている「区内市立保育園、区内市立小学校への自転車用ヘルメット着用啓発チラシ配布」と「区内市立保育園保護者への自転車ヘルメット着用率調査」を今年度も行ったが、新たな取組は実施できなかった。自転車ヘルメットの着用の実態については、今後、小学生についても把握したい。		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
スクールゾーン対策	スクールゾーンの危険箇所を把握する	親や地域住民が自主的に見守り活動を行っている、危険箇所の改善が行われている	登下校中のこどもの交通事故の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① <u>スクールゾーン対策協議会の開催数</u> 14校 ② <u>危険箇所を把握している親や地域住民の数</u> 574人	① <u>見守り活動参加者数</u> 1,950人 ② <u>改善箇所数</u> 90か所	① <u>こどもの交通事故件数</u> 15件 ② <u>交通事故によるこどもの死者数</u> 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	警察統計
【自己評価】 各小学校ごとに行われるスクールゾーン活動の流れやスクールゾーン対策協議会で出された具体的な要望内容、意見について、分科会委員へ紹介・情報提供ができた。 また、区内全市立小学校にアンケート調査を実施して、児童登下校時の見守り活動の実情を把握することができた。 年度末には、各小学校に横断誘導用の大旗を配布できた。			

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
高齢者向け交通安全教室	高齢者が交通ルール・マナーについて再確認する	高齢者が交通事故予防対策を行う	自動車事故による高齢者の負傷者数の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 高齢者向け交通安全教室実施回数 16回	① 反射材の配布枚数 887個	① 高齢者の交通事故件数 90件
	② 高齢者向け交通安全教室参加者数 887人	② 高齢による免許返納数 933件	② 交通事故による高齢者の死者数 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	警察統計
	【自己評価】 各期に行われる交通安全キャンペーンの折に、高齢者には反射材シールやリストバンドなどを付けて差し上げながらその効果を説明するようにした。 免許返納者が増えてきた。		

児童虐待予防対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
さかえっ 子の笑顔 ひろげ隊	地域が見守りの大切さを 理解する	地域が自主的に 見守り等の活動を行っている	地域に支えられていると感じ る養育者の割合の増加
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	<u>身近な地域に出向いての見守 りの啓発人数</u> 1,155人	<u>身近な地域で子育ての見守り活 動ができる場所</u> 18会場	<u>「日頃の生活の中で地域の方に 支えられていると感じることはあ りますか？」に「はい」と答えた母 親の割合</u> 約50%
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	子育てアンケート
	【自己評価】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動年数を積み重ねていくことで、啓発活動の場が広がり、児童虐待予防の理解が地域に浸透しつつある。 ・子育ての見守り活動や各地区独自の子育て支援の取り組みが定着してきている。 ・地域や関係機関の理解が進み、地域住民や関係機関から深刻な虐待に至る前の早期の段階での相談や通告が増えている。 		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
こんにちは赤ちゃん訪問	出産後早期に育児支援の情報を入手している	気軽に相談、サービス利用をしている	子育ての不安軽減
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問件数 618 件	① 地域育児教室参加者数 1,026 組	「 現在、子育てをする上で不安や困っていることはありますか？ 」 に「はい」と答えた母親の割合 約 30%
	② こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問率 87.2%	② 地域子育て支援拠点延べ利用者数 17,650 人	
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	子育てアンケート
	【自己評価】		
<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期からこんにちは赤ちゃん訪問について周知することにより、事業の認知度を上げ、高い訪問率を維持することができている。 ・子育て中の養育者が、こんにちは赤ちゃん訪問を通して地域とのつながりを持つことができている。また子育て情報を訪問員から直接入手することで、様々な子育てサービスを利用する機会となっている。 			

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
栄区虐待防止連絡会	虐待に至る可能性がある家庭が速やかに把握され、適切な支援やサービスにつながる		多様な関係者・関係機関からの支援が受けられている
	指標・実績		指標・実績
	① 児童虐待防止連絡会開催回数 1回 ② 地区別児童虐待防止連絡会開催回数 7地区／全7地区中		① 地域関係者が参加した個別ケース検討会議数 64回 ② 個別ケース検討会議開催数 73回
	測定方法		測定方法
	実数		実数
	【自己評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待防止連絡会で児童虐待の現状について共有することで、区の課題について共有認識を持ち、関係機関の連携強化と支援の充実につながっている。 ・地区別虐待防止連絡会を全地区で開催することで、地区単位で児童虐待予防や子育て支援について考えるきっかけとなっている。 ・個別ケース検討会議の開催により、支援を必要とする家庭が多様な関係者や関係機関からの見守りや支援を受けることができている。 		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
専門家による早期対応	養育者が専門職の支援に早期につながっている	リスクを抱えた養育者が多様な機関のチームの連携に支えられている	重篤な虐待や死亡に至らない
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 母子訪問指導員による第1子への訪問件数 215件	① 個別ケース検討会議実施数 69件	① 児童虐待対応件数 119件
	② 乳幼児健診受診率 98.7%		② 要保護児童数 181人
	③ 未受診者の状況把握率 100%		③ 児童虐待による死亡事例 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
実数	実数	実数、横浜市こども青少年局統計データ	
【自己評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・母子訪問から産後うつリスクがある者や育児不安が強く養育者を把握し、出産早期からの切れ目のない支援を実施することができている。また、保健師の家庭訪問による支援の他、育児不安の軽減を図れるような教室や臨床心理士による個別相談を実施し、児童虐待の未然防止を行っている。 ・乳幼児健診未受診者の把握を確実にし、支援が必要な家庭の早期把握に努めている。 			

高齢者安全対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
転倒予防に資する取組	転倒予防の重要性を認識する	転倒予防の対策を実践する	転倒・転落によるけが・事故の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 元気づくりステーションの数 18 グループ ② 転倒 予防体操のリーフレット配布数 3,010 枚 ③ 転倒予防チラシ(住環境改善)配布数 691 枚	① 元気づくりステーションの参加者数 16,168 人 ② 転倒予防体操講座等の参加者数 20,006 人 ③ 住環境改善に取り組んだ人の数 222 人	高齢者の転倒・転落件数割合 72.2%
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	救急搬送データ
	【自己評価】 中期的指標である「転倒予防体操講座等の参加者数」が前年度に比べて大幅に増加した。転倒予防体操については、啓発先の新規開拓とともに、元気づくりステーションなど、既存の介護予防活動グループに働きかけを強化した。その結果、一部のグループで定例の活動の中に取り入れてもらうことができ、その結果が実績に現れたことが大きい。平成 30 年度作成した転倒予防啓発チラシを改定し、転倒防止のための啓発をより気軽に実施できるようにした。短期的指標、中期的指標が長期的指標に顕著に表れるものではないが、啓発を継続することにより結果にでるものと思われる。		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
ヒートショック対策	ヒートショックの認知度向上	ヒートショック対策を実施している	ヒートショック対策の効果がでる
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 啓発リーフレット配布数 2,890 枚	ヒートショックの対策を行う人の割合 86%	不慮の溺死・溺水による死亡数 2021 年集計
	② 出前講座等参加者数 380 人		
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	区民まつりでのアンケート	人口動態統計
	【自己評価】 区民まつりや地域のイベントにおいて幅広く啓発を行うと同時に高齢者宅訪問の際に個々にリーフレットを配布し説明を行うなどきめ細かい啓発を行った。また、町内会掲示板にポスター掲示を依頼し、多くの人の目につきやすい場所での啓発を行った。中期的指標の結果を見ると、ヒートショック対策をしている人の割合が高いまま維持しており、啓発の効果も一因と捉えている。一方でヒートショックという言葉が全国的に定着しつつあると思われるため、毎年季節に合わせた啓発が必要。		

災害安全対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
実践的な 地域防災 拠点訓練 の実施	防災意識・知識の向上	地域防災拠点訓練に参加する	実践的な防災拠点訓練の実施 及び地震災害による死傷者数 の抑止
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	地域防災拠点の場所を知っている区民の割合 86.6%	① 地域防災拠点訓練の参加者数 5,500人 ② 学校と連携した訓練の実施拠点数 12/20 拠点 ③ 炊き出し訓練の実施拠点数 11/20 拠点	① 実践的な訓練を行う拠点 ・炊き出し訓練 11/20 拠点 ・学校と連携した訓練 12/20 拠点 ・区割り訓練 12/20 拠点 ② 地震災害による死傷者数 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	区民意識調査またはセーフコミュニティアンケート	実数	実数
	【自己評価】 ・地域防災拠点の場所を知っている区民の割合は、防災マップや啓発物品配布などの啓発の結果、年々上昇している。 ・実践的な地域防災拠点訓練については、未だ取り組めていない拠点があるため、継続的な啓発が必要。 ・地震災害による死傷者数は、0人を維持している。		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
災害時要 援護者支 援の取組	自治会・町内会が避難支援の取組について知る	自治会・町内会が避難支援の取組に着手する	地震災害による死傷者数の抑止
拡大	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① 説明会開催数 6回 ② 説明会参加者数 260人	避難支援の取組に着手している自治会・町内会の割合 92%	地震災害による死傷者数 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	実数
	【自己評価】 ・自治会・町内会への説明会は、新たな担い手のための啓発や区から要援護者の名簿の提供を受けるための説明会など活動をより発展させる際に実施しており、取組に着手している自治会・町内会の割合が上昇している。(説明会については、年度ごとに増減はあるものの、開催数や参加者数はほぼ横ばいである。) ・地震災害による死傷者数は、0人を維持している。		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
栄区独自の「地域避難所」設置及び訓練実施	地域避難所を運用している	地域避難所で運営訓練を実施している	地震災害による死傷者数の抑止
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	地域避難所選定数 68/88 箇所	防災訓練実施数 58/88 回	地震災害による死傷者数 0 人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	実数
	【自己評価】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災拠点訓練以外に自治会・町内会単位で行われる防災訓練の割合は、共助の意識の向上から、年々増加している。 ・地震による死傷者数は、0 人を維持している。 		

自殺予防対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
啓発活動の展開	自殺予防に関心をもつ	自殺予防について正しく理解する	自殺者数、自殺死亡率の抑制
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	<p>① リーフレット配布数 2,027部</p> <p>② 自殺予防対策への関心度 55.2%→57.7% (2018年) ※隔年測定のため、2019年は測定なし</p>	<p>① 自殺は自分にはあまり関係がないと考えている人の割合 48.7%→48.7% (2018年) ※隔年測定のため、2019年は測定なし</p> <p>② 自殺を口にする人は本当に自殺はしないと考えている人の割合 27.6%→29.5% (2018年) ※隔年測定のため、2019年は測定なし</p> <p>③ 多くの自殺者は1つの原因だけでなく、様々な問題を抱えていると考えている人の割合 77.8%→72.7% (2018年) ※隔年測定のため、2019年は測定なし</p>	<p>① 自殺者数 20人 (2018年) 2019年データは2020年集計</p> <p>② 自殺死亡率(人口10万人に対する割合) 16.7 (2018年) 2019年データは2020年集計</p>
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数		人口動態統計
<p>【自己評価】</p> <p>隔年測定のため、測定、評価できない項目がある。</p> <p>自殺者数は2017年より2名増えたため、1.8ポイント自殺率が高くなっている。市では自殺者数が減少しても、若年層の自殺者数は減少していないという傾向にあるため、栄区でも同様に年齢別の増減傾向をみて、若年層への対応をしていく必要がある。</p>			

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
ハートフルサポーター	ハートフルサポーターを育成する	ハートフルサポーターが啓発活動に参加している	支援機関へのつながりができている
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	さかえ・ハートフルサポーターの延べ人数 1,456人	ハートフルサポーターの啓発参加者数 19人	① 生活困窮者に関するネットワーク会議の開催数 2回 ② 生活困窮相談に他機関、他部署からのつながる件数 70件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	実数
	【自己評価】		
	区職員への研修を積み重ねてきたことで、自殺予防に関する知識とサポーターとしての役割の理解が広まった。また、地域の支援者である保健活動推進員向けの研修実施により、地域にも自殺対策への理解が広まった。		

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
リスク者支援強化	リスク者対応について知る	リスク者対応を実践する	自殺者数、自殺死亡率の抑制
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	① <u>メンタルヘルス支援ネットワーク参加者数</u> 58人 ② <u>メンタルヘルス支援ネットワーク実施回数</u> 2回 ③ <u>メンタルヘルス支援ネットワーク延べ参加団体数</u> 19団体	<u>対応したメンタルヘルス不調者の人数</u> 指標変更を検討中	① <u>自殺者数</u> 指標変更を検討中 ② <u>自殺死亡率(人口 10 万人に対する割合)</u> 指標変更を検討中
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	実数	実数、人口動態統計
【自己評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・リスク者支援については母数が少なく、測定可能な指標を設けることは困難と判断し、指標変更を検討中。 ・メンタルヘルス支援ネットワークをとおして、各機関相互の顔の見える関係づくりがすすみ、幅広い職種間での自殺予防の意識づけの機会となっている。 ・自殺リスク者向けの支援ツール（カード、リーフレット、パンフレット）を活用し、区内の医療機関、福祉関係機関、行政機関で協働してリスク者への相談支援を続けていく。 			

防犯対策分科会

取組	短期的指標	中期的指標	長期的指標
振り込め詐欺の被害者層への啓発実施	振り込め詐欺防止のための知識向上	振り込め詐欺予防のための対策を実施する	認知件数及び被害金額の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	講座・講演による振り込め詐欺の啓発回数 50回	振り込め詐欺予防のための対策を実施している人の割合 2019年度につきましては、コロナウイルス感染拡大防止のため、アンケート実施中止	① 認知件数 37件 ② 被害金額 6,944万円
	測定方法	測定方法	測定方法
	実数	アンケート	警察統計
	【自己評価】 振り込め詐欺の手口は年々巧妙化されており、それにあつた新しい啓発をする必要がある。元年度は、啓発物品を作成し、自治会町内会や区民まつりで配布するなど広く啓発する事ができた。引き続き啓発方法等を計画していきたい。		